

155&156もいいけどGTVにも注目のモディファイ・アルファ! 参加型モータースポーツもいよいよシーズン後半!

スポルディング・ティーポ  
November 2000 Vol.5

ティーポ11月号増刊 第11巻第18号 平成12年11月1日発行  
スポルディング・ティーポVol.5  
レーシング・スピリット全開増能マガジン  
ティーポ11月号増刊

# Sporting

Sporting  
eye

Motor Sport  
Car-magazine  
**Tipo**

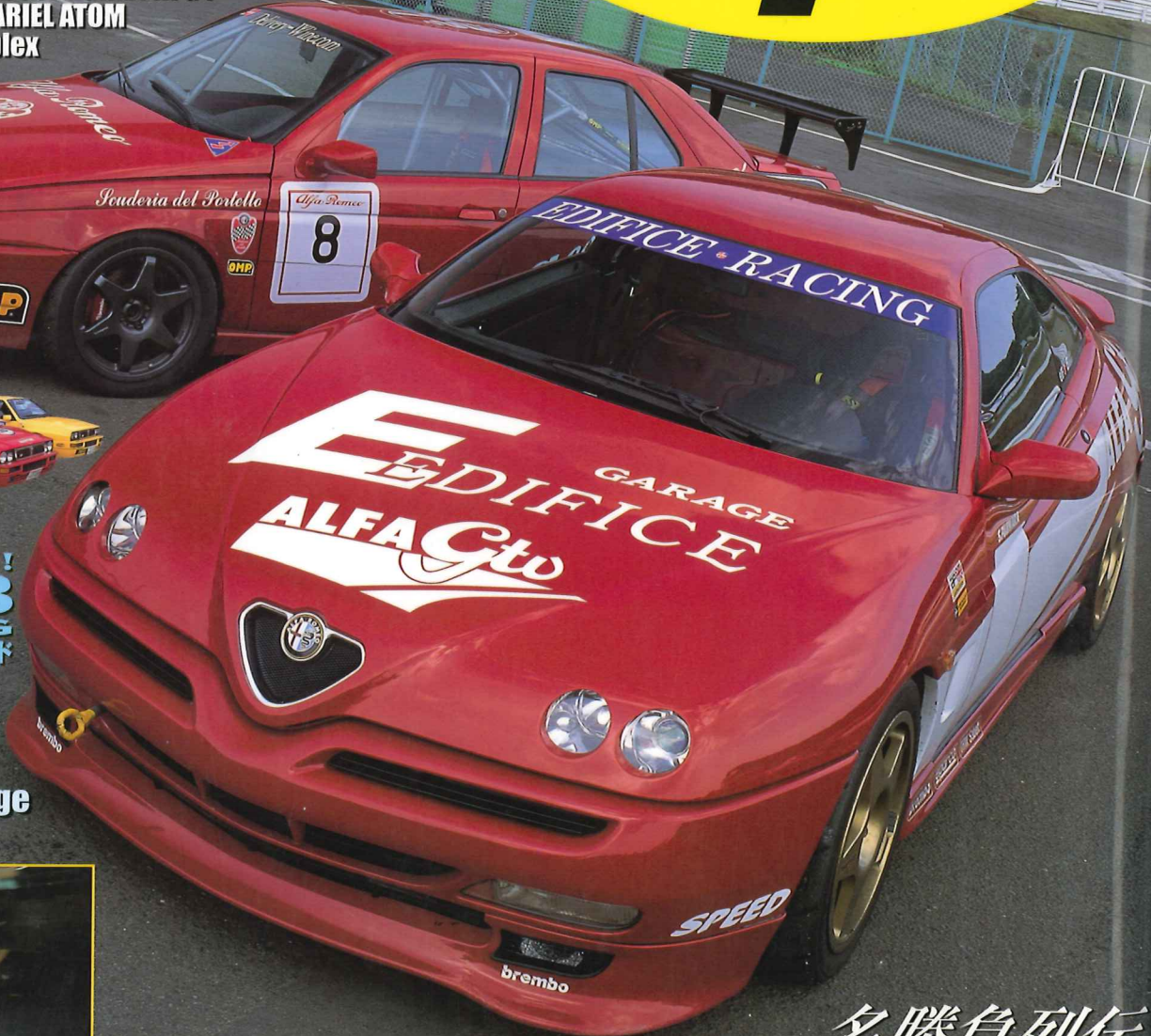
GPライダー伊藤真一選手のアルファGTVや  
話題のアリエルアトム、クリオカップカーまで  
スポルディング注目のチューン&スパルタン大集合!

## このテありチューン&スパルタン特集

- ALFA ROMEO GTV ALFA ROMEO155 Q4
- CATERHAM SUPER SEVEN 500R GINETTA G4
- LOTUS ELISE+QUANTUM ARIELATOM
- PEUGEOT 406 Guidosimplex
- PEUGEOT 206 WRC

JOIN BATTLE!  
**CLUB**  
SPORTING  
参加型モータースポーツ・ガイド

- Lotus Elise Cup
- New Beetle Cup
- PEUGEOT CUP
- Alfa Romeo Challenge
- Netz Cup etc.



Competition Scene

DTM2000特集/WRC:デビッド・リチャーズの野望

名勝負列伝  
1986 MONTE-CARLO RALLY

定価690円



## レースはオールSS形式 合計3ヒート行われます

午前中のレースはフルコースのSS（スペシャル・ステージ）が2ステージ。タイムは速いタイムを選択の対象にします。昼食の後、途中のショートカッパを使用し2ラップするSSが1ヒートが行われ、午前のベストタイムと、午後のタイムが加算されて順位が決定します。

WRCのように、1台出てしばらくしてから、次の一台が出る形でスタートシーンだけでも、ラリー気分をさせ

てくれます。

スタートは各車激しくホイールスピンをするのかと思ったら、結構おとなしめでビックリしました。各車プロオフの音を高らかに響かせながら狭いコースを縫うように走り抜けていきま

す。スタート地点の左側に大きな日陰を求めるギャラリーでいっぱいでした。

午前中のSSはまだ感覚がつかめていないのと、タイヤが暖まっていないので、ほぼ各車ドリフト状態になっていました。中には派手にサイドブレーキを引きながら、オーバースピンして



ギャラリーも参加者もお祭り気分を満喫しています。キャンプをやっているすぐ目の前で、デルタが爆走するのはこのサーキットならではの。ビール片手にな〜ってひとまかなりました。さすがにドライバーは違反燃料になるので、飲んでいないイスなんですけど。

## 打倒デルタの刺客たち

4WDは同じ



同じ4WDでも、こちらアウトディクワトロ。ボディ重量。エンジンパワーなどでデルタにひけをとるもの、楽しく参加しているカンジがして良かったっす。

エンジンは同じ



アルファ155Q4。味付けは若干違うものの基本的なエンジンは同じなのだ。長いホイールベースを駆使してデルタに肉薄したタイムを出せれば見せ場十分。

カラーは同じ



一際目を引くマルチニカラーで登場したのはデルタではなくパルサーでした。スタートでのグリグリホイールスピンで観客を沸かしていました

メーカーは同じ



爆音のデルタの集団に迷いこんでしまったようなカワイイ、イプシロン。軽さを武器に下りではケッコウがんばってました。

しまうデルタもいましたが、とにかく絵になります。

午前中の順位は1位が昨年のチャンピオン池田選手の48秒88、2位は49秒52のデルタカップ事務局の森山選手3位は2本目にベストの49秒87を叩き出した平沼選手でした。

昼休みは、各自でパーベキューを楽しんだりキャンフ気分も同時に味わえるお得なサーキットです。

こはんを挟んで午後のセッション。今度は午前中のコースの途中でターニングを、もう一度最初からショートコースを1周するコースですが、午前中のコースに比べてアップダウンターニングをするコーナーが非常に見づらく、オーバーランしてしまう車位は多く、スタート直後にもエンジンストップのレースも発生しました。

今年度、もう一度最初からショートコースを1周するコースですが、午前中のコースに比べてアップダウンターニングをするコーナーが非常に見づらく、オーバーランしてしまう車位は多く、スタート直後にもエンジンストップのレースも発生しました。

今年度、もう一度最初からショートコースを1周するコースですが、午前中のコースに比べてアップダウンターニングをするコーナーが非常に見づらく、オーバーランしてしまう車位は多く、スタート直後にもエンジンストップのレースも発生しました。

順位の集計は意外と時間がかかってしまっただけで、そういった時間も意外と重要で。参加者同士が雑誌を片手にデルタの情報交換をして交流を深めていました。

さて表彰式。午前中の2本のSSのベストタイムと午後2本のSSのタイムの合計で順位を決定します。

最終順位は2年連続王座を守った池田選手でした。2位には0秒17の差で平沼秀敏選手。3位はS4クラスが、あべが常に優勝のデルタカップ事務局の森山選手でした。

またなるべく参加者に、均等に賞品がわたるように、ぴったり賞・一番遠くから来たで賞、初参加賞なども設けられ楽しい表彰式になりました。

年に一度しか開催しないのに、意外なほど、中がよい参加者同士の交流を見てると、デルタを買って、来年デルタに出てみようかなって思わせてしまうほど。これがデルタカップの最高の魅力でしょうね。

### DELTA CUP 2000 Result

順位	車番	ドライバー	車名	SS1	SS2	SS3	TOTAL
1	47	池田 史	Evo2	49.06	48.88	51.01	1'39.89
2	23	平沼秀敏	Evo2	49.91	49.87	50.19	1'40.06
3	45	森山元一郎	S4	49.68	49.52	51.33	1'40.85
4	53	吉木達嗣	Evo	50.67	51.32	50.77	1'41.44
5	9	高野洋一	Evo	49.91	49.98	51.61	1'41.52
6	58	石塚昭廣	MASSIMO DELTA	50.00	50.62	51.72	1'41.72
7	59	寺沢久紀	8V	50.36	50.23	51.93	1'42.16
8	52	山田電彦	Integrale 6	50.76	50.77	51.84	1'42.60
9	49	辻 靖夫	Evo2	50.58	50.25	52.37	1'42.62
10	21	会田 一	Evo	51.84	51.63	51.67	1'43.30



2年連続ウィナーとなった池田選手。2位は平沼選手。3位はデルタカップ事務局の森山選手です。



レース終了後のお約束、じゃんけん大会。初参加の人限定のじゃんけんでは豪華？商品が飛び出して、いい大人がみんなマジでじゃんけんしてました。

# モディファイト デルタ Pick Up!!



## マジョーラカラーは迫力十分 師田龍一郎さん

遠くからでもはっきりと確認できる派手派手マジョーラカラーのEvo。実は、これはイタリアで真印を製作した本物志向のデルタです。実はこの車ルックス以上に中身も派手派手なんです。オーナーさん曰くエンジンならし中という負け惜しみに近いコメントをいただいているんですが(笑)、エンジン以外でも室内は完全に無駄な内装を省いて軽量化されています。また、ルーフのエアスクープやエンジン、サスペンション、ボディ補強など本国イタリアN1仕様と全く同じモノを使用している。気合いのはいった一台なのであります



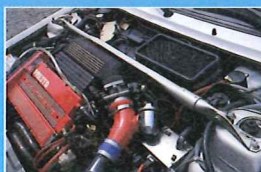
## チャンピオンカーは実はエンジンノーマル 池田 史さん

昨年・今年と見事に二連覇を飾った池田選手のEvo2。実はコレ、エンジンノーマルなんです。でも、インタークーラーのサクシオンパイプをショートタイプのものに交換して、ブーストのレスポンスをよくするチューンを施しているのがポイントだ。その他変更点は、インタークーラーに噴射するウォーターズプレー。ウインドウォッシャーのパイプからバイパスを造り、コックを回すことにより、インタークーラーに水を吹き付ける仕組みになっています。その他はマッシュモのサス・ブレーキパッド、タイヤはミシュランのカットスリックで足下を固めている。今後の課題は軽量化を予定しているそうです。



## グルッポMは伊達じゃない 渡辺雅人さん

こちらは本場イタリアのグルッポN仕様。デルタチューンでは老舗のストリートライフが所有するいわばもかーだ。エンジンはイタリアのチューナーで製作され更にストリートライフでファインチューンが施された珠玉のターボユニット。サイドブレーキの後ろにはブレーキバランスコントローラーが装着されており、これによって前後のブレーキバランスの変更が可能に、あまり極端なセッティングにするとスピンをし易くなるので注意が必要とのこと。その他は、ジャングルジムのようなロールバーが装着されている。まさに本場で戦うベース車輛の神髄がココにあるのです。



## 大型ウィングは効果抜群 安藤真一さん

オリジナルのエアロパーツは販売もしている秀逸なパーツ。外観を派手に演出しているリアウィングは、材質がカーボンクロスが9万円、ガラスマットが7万円の2タイプ。またOZラリーレーシングの15インチ専用のホイールベンチレーターは材質がカーボンクロスで6万5000円。その他、リアにバッテリーを移送・接地するバッテリーケースが1万6000円。ダクトパイザーが4000円、ターボのサクシオンパイプがアッパ-2万4000円、ローア-が1万9000円など賞品ラインナップは数え切れないほどだ。詳しくはエ-エヌ・ティークラフト TEL: 0489-92-3818まで

